

JAPAN HERITAGE

日本遺産
桃太郎伝説

令和7年5月18日

～両宮山古墳保存整備工事完了記念第4弾～

しせきりょうぐうざんこふんふんきゅうすぞ
史跡両宮山古墳墳丘裾保存整備工事 完成記念見学会

赤磐市教育委員会

はじめに

赤磐市教育委員会では、国史跡両宮山古墳の保存整備活用のため、平成29年度から令和6年度まで8年をかけて墳丘裾の保存整備工事を実施し、このたび完了しました。

両宮山古墳は、整美な前方後円形の墳丘と水をたたえた内濠^{うちぼり}によって広く知られています。しかしながら、長年にわたる内濠（農業用溜め池：両宮池）の波浪^{はろう}により墳丘裾^{しんしよく}が浸食され、崖状の崩落が進行しています。

このため、墳丘保護対策の工法等を検討することを目的に、平成25から27年度まで3次にわたる発掘調査を実施しました（合計21本のトレンチ）。調査によって、墳端および内濠の堆積状況等の情報や第1段目を中心に墳丘構築法について明らかとなりました。その内容は巨大古墳の構造を解明する手がかりの一端となりました。この調査成果をもとに整備工事を行いました。

本事業に際してご協力をいただいた関係者及び地元の方々には心よりお礼申し上げます。

工事の内容（図2）

基本的に掘削を行わず、将来においても元の姿に戻せるようにしました。墳丘裾の崩落・浸食防止のため、水面となる場所にフトンかごを置くことにしました。本来ならば本墳に葺石がないため誤解を与えかねませんが、水から墳丘を護るには石材が一番有効ということで、石材を用いた護岸としました。フトンかごは通常直方体で2段積むと段差ができるため、異形フトンかごを用いて段差がつかないように配慮しました（東側くびれ部周辺は推定復元でないため直方体1段）。フトンかごを設置するための捨石^{すていし}端部が本来の墳丘の推定復元ラインに近くなるようにしています。西側の造り出しや東側のくびれ部では墳丘の推定復元でなく、現状に沿った形状としています。

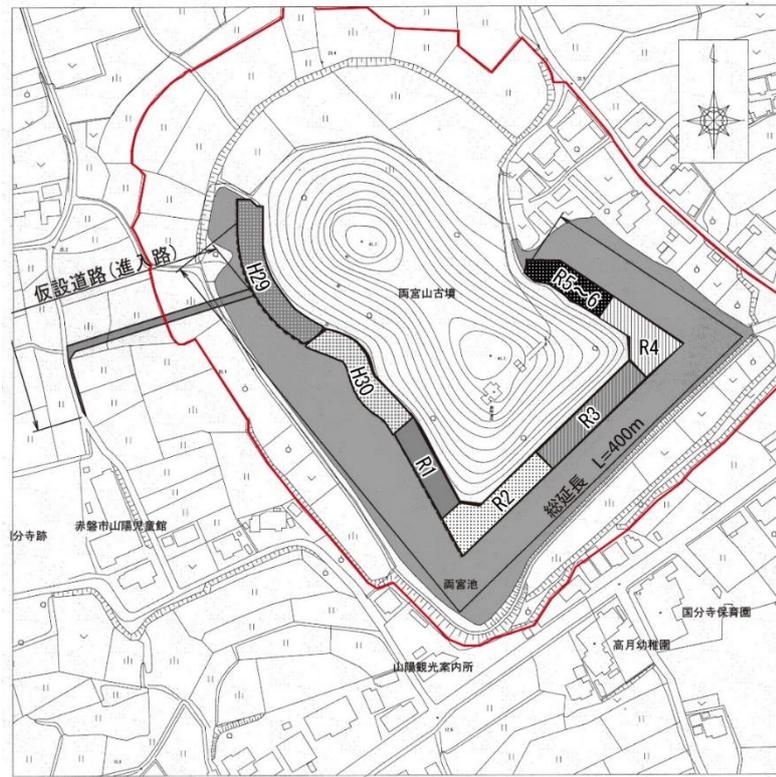


図1 工事の範囲

作業工程

- ①仮設道設置：幅 4mの仮設道を設置。
- ②樹木伐採と搬出：幅 2m程度
- ③基盤設置：捨石による基盤設置（幅約 4mほど）
- ④護岸施設設置：異形フトンかご 2段（高さ 1.2m）
- ⑤崩落部分埋め戻し：えぐれ部分は人力によるタコ締め
- ⑥盛土、張芝及び植生土のう

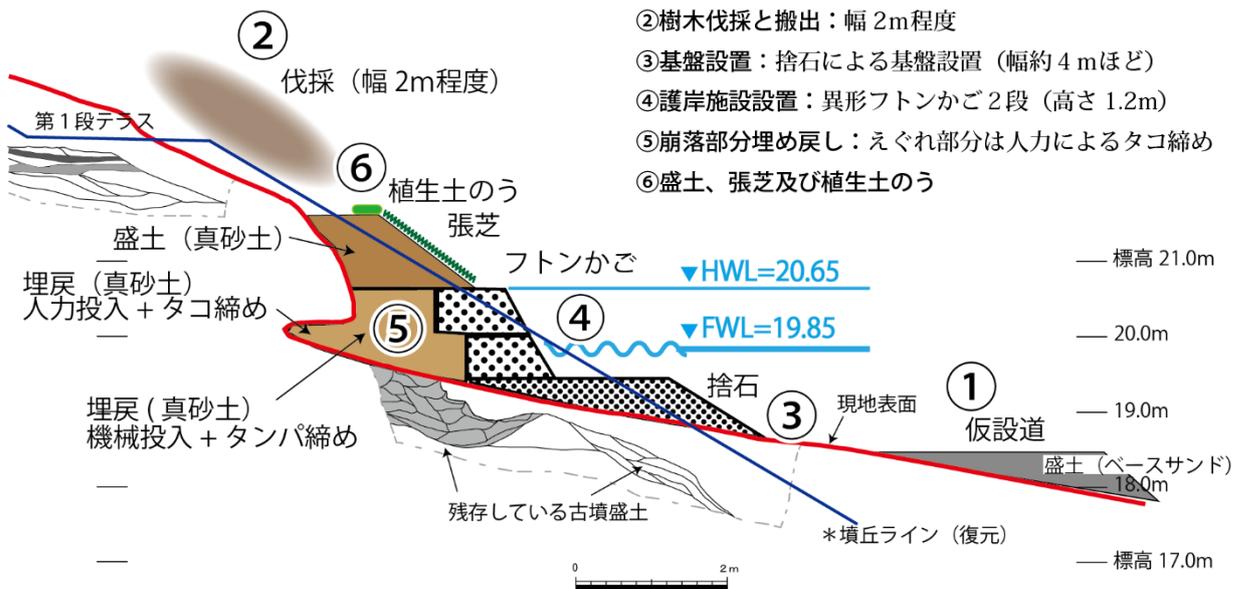


図2 工事の標準断面 模式図



図3 墳丘裾の崩落過程 模式図



写真1 墳丘裾の浸食状況

両宮山古墳とは

両宮山古墳は、今から1500年以上前の古墳時代中期後半（5世紀後半）に築造された墳丘長206mの前方後円墳です（水面より上の規模は194m）。その規模は岡山県内で3番目で、吉備の三大古墳の一つとして知られています。平成30年5月に認定された日本遺産「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」の構成文化財の一つになっています。内濠の外側には中堤、さらにその外側には外濠がめぐる巨大な墓域を有しており、畿内の大王墓に準じた構造をとっています。後円部北側には陪塚と考えられる和田茶臼山古墳を伴っています。

葺石・埴輪などの外表施設はなかったと考えられています。

*本資料の引用・転載はお控えください。

発行：赤磐市教育委員会社会教育課
赤磐市下市337



写真2 工事完了直後の状況（水を入れる前）